

地震火山こどもサマースクールは400人の参加者に何を残したか

What did the Schoolchildren's Summer Course in Seismology and Volcanology left 400 participants something?

中川 和之 [1]

Kazuyuki Nakagawa[1]

[1] 時事通信, 防災 Web

[1] Jiji Press

<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/kodomoss/>

日本地震学会と日本火山学会は、日本各地の地震や火山に関係する場所で、1999年からほぼ毎年、「地震火山こどもサマースクール」を開催し、これまでに10歳から18歳までの延べ約400人が参加している。研究や実践の最前線にいる専門家が、子どもの視点で地震や火山のしくみや本質を直接語り、災害と不可分の関係にある自然の恵みを伝えることが目的だ。プログラムの進め方は、子どもたちの好奇心を刺激するゲームや実験、対話型で行っている。

日ごろ地元で見慣れた風景を、専門家の力を借りて観察をし、実験で体験し、ゲーム的な要素を交えた講義を聴くことによって、地震や火山と自然災害の本質を伝えようとしたこの10年間の試みが、どのような成果を上げられたのか、過去の参加者に対して実施したアンケート結果を報告する。

これまで、各回を実施したごとに行っているアンケートでは、「プログラム内容のどこが良かったか？」という質問に対しては、「野外見学」28%、「実験」26%、「お話」26%、「発表」9%、「その他」11%と、フィールド、実験、講義の3本柱ともにそれぞれ評価されている。

また、「専門家の話は分かったか？」という質問に対しては、時に大人でも難しい話をしているのにもかかわらず、「よくわかった」39%、「まあわかった」39%、「少し難しかった」20%、「かなり難しかった」2%という結果になっている。

また、2004年に行った過去の参加者アンケートも踏まえて、その時点との差や、サマースクールに参加していないが、地震や火山に関して学ぶ機会があった若者たちにもアンケートを行って比較する予定である。